

○議長（初村 久藏君） 6 番、伊原徹君。

○議員（6 番 伊原 徹君） ありがとうございます。消防長に少しお尋ねしたいと思います。  
救急救命士の島外の御出身者は何名ほどいらっしゃいますか。

○議長（初村 久藏君） 消防長、井浩君。

○消防長（井 浩君） 失礼します。伊原議員の質問にお答えします。

島外者は現在、救命士2名でございます。

○議長（初村 久藏君） 6 番、伊原徹君。

○議員（6 番 伊原 徹君） ありがとうございます。2名ということで、今後も恐らく増えるのか減るのかちょっと私もよく分かりませんが、非常に人手不足ということですので、消防活動に支障のないような状況を今後もぜひ取り組んでいただきたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時5分からといたします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○副議長（春田 新一君） 再開します。

報告します。初村議長から早退の届出があっております。

引き続き、市政一般質問を行います。14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 皆さんおはようございます。14番議員の小宮でございます。  
私の持ち時間は50分でございますので、皆様よろしくお願いをいたします。

私もそうですけれども、皆さんもそうだと思うんですが、朝起きて、テレビのチャンネルをポッと押すんですけれども、そうすると一番先に飛び込んでくるのは、大谷翔平選手の活躍がすぐ目に飛び込んでまいります。

アメリカの大リーグの歴史は150年、約150年あるそうです。150年の前のこの日本はどうかというと、15代将軍の慶喜公が大政奉還をした1867年ぐらいに当たります。

この大谷選手、もう既にこの大リーグの記録を塗り替えて、さらに50、50ですか。50本のホームランと50個の盗塁という大きい目標に向かって頑張っておられます。

日本の人はほとんどテレビを見るわけでございますが、朝からこれを見ると元気と勇気をいただきます。これはまさに、我が日本国の誇りであります。

そしてアメリカは、いつでしたか。11月の5日に大統領選がございます。これには女性のハ

リス現副大統領と前大統領のトランプ氏が争っております。

このトランプ氏、民主主義をないがしろにするような人のようにございます。まさに21世紀の悪魔の落とし子ではないかと私は思っております。

よく皆さん小さいときにトランプをされると思いますが、こたつの上とかテーブルで、若いときはこのトランプを配って遊ぶわけですけども、トランプの遊びの中にババを引くと、もうそこで負けるわけですよ。アメリカの国民の方には、ぜひこのトランプが、トランプ氏にババを引いていただくようお願いをしたいと思います。

この日本国内で、先月の8月のいつでしたか、26日に中国の情報機が同じこの長崎の五島列島の男女群島に領空侵犯をしております。今回はこれが初めてだということですが、領空というのは領海があって、その外に12海里の接続水域というのがございます。

まずこの飛行機は、この接続水域で二、三回回るんですね。そして接続水域に入ると、当然警告が出るんです。これ以上入ったらいけませんよというふうな警告が出るんですが、最後に男女群島の領海をわずかにかすめて、そして逃げていったんですよ。

その目的は何か。これは自衛隊にスクランブルをさせて、そしてそういう、どのような対応をするかという情報の収集に来ているわけですよ。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義議員、一般質問に入りましょうか。

○議員（14番 小宮 教義君） もうちょっとで終わりますから、待ってください。そのような中国に対して、もっと日本は厳しくやらないいけない。領空侵犯をしたその飛行機は、すぐに打ち落とす。それを日本政府に苦言を呈したいと思います。

そしてさらに、日本では総選挙がございます。9月の27日に自民党の総裁選があるんですが、9人の方が立候補されておられます。その立候補の中に、すばらしい言葉もございまして、もう終わりますんで、中に、この立候補の中にすばらしい言葉があるんですよ。よく聞いていただきたいと思いますが、早苗あれば憂いなしと、早苗あれば憂いなしというふうな言葉のキャッチフレーズも出ているようでございますので、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

では、さきに通告しておりました2点について。

まず第1点が、新庁舎建設事業について。これは3点ございます。

事業計画年度はいつになるのだろうかというふうに城下の方も心配しておられますのでこれが一つですね。

どこに建つんだろうかと。建設予定場所はどこなのかと。

3番目が、結構なお金がかかるわけですけども、どれほどの金額、そして資金計画がなされておるのかというのが1点と。

大きい2点が、学校給食の無償化について。これはもう長崎県下、無償化に進んでいるところ

があるわけですが、対馬市は今後どのように対応をするのかというわずかの2点でございますので、市長の答弁を求めます。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 小宮議員の質問にお答えいたします。

初めに、新庁舎建設事業についてでございます。

厳原庁舎につきましては、平成30年度に実施いたしました耐震診断の結果、現在の耐震基準を満たしていないことが判明いたしました。この診断結果を受けて、庁舎を建て替えるのか、耐震補強工事を実施するのかと、市職員を構成員とする内部検討会議で検討を重ね、また市民の皆様様の御意見を広くお聞きするため、公募委員や各種団体の代表者といった外部委員を含む市役所厳原庁舎整備等検討委員会を設置して御検討いただきました。

令和4年11月に検討委員会から検討内容の報告を受けまして、翌月の12月定例会においては、現時点で私の考える厳原庁舎の今後の方向性について、重要となる3つの点をお示しいたしました。

まず1点目は、耐震補強ではなく、庁舎の新築建て替えを実施する。2点目は、原則本庁機能集約方式とする。3点目は、厳原市街地で建て替えを実施するというものであります。

今回御質問をいただいております新庁舎の建設時期や建設場所等について、まだ明確に回答できる段階のものは何もございませんが、現在の状況について申し上げますと、庁舎建設整備基金の令和5年度末の積立金額が12億2万9,360円となっております。

この積立金については、庁舎建設総事業費の試算額80億円から100億円の50%であります40億円から50億円を目標としております。

総事業費は、新庁舎の規模や建設場所によって大きく変わる可能性もございますが、当分の間は基金を積み立てていくことになろうかと思っております。

また、新庁舎建設に係る財政負担を軽減するため、補助金、交付金等を模索しておりますが、現在新庁舎整備に活用が可能な制度がございませんので、長崎県市長会を通じて、国と県に対し、庁舎整備に係る財政支援制度の創設を提言しているところでございます。

次に、学校給食無償化についてでございますが、学校給食は児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を担っております。

御質問の学校給食費の無償化につきましては、令和6年6月、第2回定例会においても答弁しておりますが、学校給食は子どもたちの健康の保持増進と体力向上に大きな役割を果たしております。また、社会的格差の解消に加えて、保護者の家計や心理的負担の軽減という観点から必要性が高く、子どもたちの未来を明るくするために、社会全体で取り組むべき課題であるこ

と認識しております。

令和6年5月1日現在の県内各自治体の支援状況は、完全無償化を実施している自治体が4市町、一部無償化を実施している自治体が5市町でございます。

本市におきましては、基本物資補助金や地場産物使用時の食材補助金において給食費の負担軽減を図っているところでございます。

しかしながら、無償化を実施することとなると、さらに大きな財政的負担を伴いますので、給食費の無償化は社会全体で安心して子育てできる環境を確保するとともに、保護者の負担軽減となることから、国の政策として実施すべきものと考えます。

また、長崎県市長会として給食費の無償化については、重点項目として国へ要望をしているところでございます。

学校給食費の完全無償化実現に向け、国の責任と財源による必要な措置を講じるよう、引き続き国や県に働きかけてまいります。

以上でございます。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） どうもありがとうございました。先にこの新庁舎の建設なんですけど、先ほどの御説明ですと、まだ場所等も決まっていないうんだと。何ら案も出ていないということなんですけれども、仮に建物を建てるということであれば、いろいろなパターンがあろうかと思うんですけれども、例えばここに建るとどのくらいかかるんだとか。いや違うよ、もつと安い、ここに建てればどのくらいかかるんだとか、そういうある程度のパターンを設定をして、それに対してどのくらいのお金がかかるのかというのを先にして、そしてそれに基づいて建設関係の基金関係の設定もするというのが一般的だと思うんですが、そのような作業はされてなかったんですか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今現在では、まだ場所も特定はしておりません。巖原の市街地内ということにとどめております。

そこで、まだ具体的な施工単価ということには至っておりません。今回のこの80億から100億円という試算額につきましては、博物館の第2工区の単価を利用しまして、大体の必要平米数を算定いたしまして、この約8,200平米近くですか、今必要としている延べ床面積が、正確に8,164平米と試算しておりますけれども、これからこの延べ床面積に博物館の第2工区の建設単価を掛けまして、建設費を約64億円ということで試算をしているところでございます。

そのほかに引っ越し費用とか、またもし仮庁舎等が必要になればということで、80億円から

１００億円という概算計画を立てているところでございます。

○副議長（春田 新一君） １４番、小宮教義君。

○議員（１４番 小宮 教義君） この延べ床面積については、８，２００平米を見てるんだということですね。今の庁舎は別館もございしますが、両方足しても４，４００平米ぐらいなんですよ。

これから人口が減っていく中で、倍ぐらいの建物になるわけですが、そのような必要性はないかなと思います。

それで、今の規模を基本に置きながら、市の職員の方は仕事がお忙しいでしょうから、私なりに３つのパターンを設定しておるんですよ。タブレットを見ていただければと思うんですけど。まずこのプラン１というもの。延べ床面積については、今の建物が４階建てですが、よう増やしてもあと１階、５階建てぐらいで、延べ床面積は約５，４００平米ぐらいで十分足りると思います。

プラン１の説明ですけど、これは今ある建物を壊して、そこに建物を建てるということです。このプランでは、まず今の建物の解体費用が１億１，０００万円、小さいのがありますので、これが１，０００万円で、５階建てにして、延べ床面積が５，３６０平米で、これが約３３億円ぐらいかかります。

次いで、外構工事関係を入れると、約１億２，０００万円。そして２か所ぐらいに引っ越しをしなければいけないと思いますので、２か所引っ越しをする費用が約１億２，０００万円。引っ越しすれば、中をいろいろ扱わんといかんのでこれが約２億円。

そして、仮にその対馬振興局の別館を借りるとすれば、工事は３年ぐらいかかりますので、よく見積もっても３年かかるんですよ。そうすると、３年間分のお金を払わんといかんでしょうから、約１，５００万円。そして諸経費を入れて２億円。

合計で４２億円ぐらいで今の４階や５階ぐらいの大きさのスペースで設定ができると思います。

続いて、移転先なんですけども、旧いづはら病院を使うということ。これは結構スペース空いてますので、空いてるスペースが４，７００平米あります。そのうちの７０％を使ったとしても３，５００平米。対馬振興局は２，１８４平米ありますんで、この中で十分に移転はできるというプランですね。

先ほどの８，２００平米というのは、あまり大き過ぎる平米数ですけども、このくらいあれば十分できるんじゃないかというのが１つ目のプラン。

２つ目のプランが、これは移転するということは３年間かかるんで、今の建物を使いながら、当然市街地にやっていくわけですが、使いながら横に土地がありますんで、この土地を買収して、そしてそこで建物を建てながら、終わったらすぐ引っ越しをするというパターンです。

これが、買収面積が土地の買収は約1,925平米あります。あそこ8軒くらい建物あるんで、補償費がやっぱり4億円から5億円かかりますんで。あとは建物が33億円とか、解体工事と一緒に、1,000万円。

そして1億1,000万円と、その他の建物と一緒に、ただあそこをすると、のり面関係、補強関係の工事がありますんで、これを約2億円見たとしても47億円くらいで、今のを使いながらできるんじゃないかと思います。

それと、この3番目のパターンなんですが、これは、どうせ引っ越しをすれば、振興局とか今の旧病院の跡地を使うことになると思うんです。引っ越しを振興局の別館にするとすれば、もうそこを拠点にしてもいいんじゃないかと。

先ほど言われるように、人口もどんどん減っていくんです。2050年になると国立人口問題研究所のやつの話でしても、1万3,326人しかいないんです。そうすると、あそこで、この別館で十分足りるんじゃないかと。

この別館の大きさが、振興局、これが4階建てで2,184平米あります。現在の市の庁舎は2,673平米あります。今の庁舎の60%くらいの大きさが振興局の別館が使えるんじゃないかということ。これを使いながらかつ横に土地がありますんで、あそこが1,250平米くらいあるんです。あそこを駐車場にする。約70台から80台止まりますんで、そうするとあそこに拠点的なものを移しながらやれば、市内でもあるし、人の運びも早い。行きやすいんじゃないですか。

そして旧いづはら病院については、あまり人が出入りしないような施設を持っていけば対応できるんで、時間の経過とともに先ほど言ったように、1万3,326人というそれ以上に減るわけですけども、そういうふうな対応もできるので、こういう対応もひとつ考えていかないとけないと思います。

そしてそこに、振興局に移すとすれば、まずその振興局の買取りの値段があります。これが減価償却したとしても、5億円あれば十分に足りると思いますので、それが5億円で、横の今焼き肉屋さんがありますけども、あその土地が約8,800万円、そして駐車場しなければいけないんで、その整備で約4,000万円くらい。

そして、2棟くらい建物があるんで、その補償関係が約1億円。総額で7億8,000万円くらい。このくらいの金額で対応できると思うんですが、パターン1、2、3を提示をさせていただきましたけども、どのようにお考えいただけるでしょうか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 本当に3パターンを考えていただきまして、心からお礼を申し上げます。本当に参考にさせていただきたいと思っております。

ただ、今この庁舎整備検討委員会等で、これまで審議をされてきました案の中では、やはり本庁に集中させる機能集約方式を採用したいということでありまして、例えば今この議会棟は豊玉でございますけども、議会棟とか福祉部、保健部関係、教育委員会関係、こういったところを本庁機能として集約するとなれば、先ほど申しましたように約8,200平米ぐらいの延べ床面積が必要になるのかなという考えで、現在は組立てをされております。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 先ほど言ったように、人口がだんだん減っていくじゃないですか。今まで旧6町ありましたけども、比田勝の庁舎もそうだし、上県もそうじゃないですか。行ってみれば分かると思うんですが、使っているのはわずかな部分だけじゃないですか。ほか上は全部空いているんですよ。

そういう状態は、十分に予想できるし、そうなると思うんで、その辺の基本的な面積の計算もやっていっていかねばいけないと思いますよ。

ただ単に、その現状を維持とする形じゃなくて、それが大事だと思います。

一番いいのは、やはりこれからどんどん人口が減っていくわけですから、今ある建物を限りなく使えるようなものを把握していくことが大事だと思います。

もう10年すると、かなりの施設もなくなるんじゃないかと思うんですが、特に巖原の市街地を見ると、対馬市交流センターというのがございますが、あそこもイオンさんが入っていただいていますけども、イオンさんの考え一つで、あの店がなくなると全て終わるんです。

多分、人口減からすると10年ぐらいあれば、ほとんど先が見えてくるんじゃないかと思うんですが、あの施設は非常に大きいので、地下にも駐車場が100何台も止まります、車が。2階、3階もかなり広いんで、そういうふうな活用の仕方でも並行して考えていかねばいけないと思いますが、どうでしょうか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほどお示しいただいた3つのプランの中で、私たちも、特にこの振興局との合同庁舎の件も、いろいろと内部ではありますけども検討をした事例がございます。

そしてまた、今交流センターの話がございましたけども、交流センターのほうは、今後、今議員おっしゃられるように、あと10年後の動向がどのようになるのか。今現在のところはちょっと私たちも想像がなかなかつかないといったことで、このことについては、本日いただいた御意見を参考に、進めていきたいというふうに思っております。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） では、次の学校給食の無償化なんですけども、今生徒数は先ほど一般質問の中で、児童と生徒の数はお聞きいたしましたけれども、再度確認なんですけど、小学

校、中学校の児童と生徒数と、令和5年度の決算からでもいいし、令和4年度の決算からでもいいんですが、この給食にかかる費用、小学校、中学校、全体合わせた金額をもう一度御説明をいただけますか。

○副議長（春田 新一君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） お答えします。

本年度のまず小学生が1,203名、中学生が637名です。合計1,840名、これは5月1日現在の人数です。

あと給食費についてですけども、これは昨年度のデータですけども、小学校が6,750万円程度かかっております。それと中学校が4,642万円程度、合計で1億1,400万円が給食費としてかかっている金額でございます。

以上でございます。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 小中学校合わせて児童生徒数は1,840名ですね。それとこれにかかる給食の費用が約1億1,000万円という認識でよろしいですか。分かりました。

市長がこの選挙公約の中で言っておられます言葉があるんですが、誰一人として取り残さないんだという、声高々に言っておられましたが、この言葉というのは、市民にはブルブルっとくるような言葉なんです、この言葉というのは、例えば今までの歴史上の偉人とか、そういうふうな言葉なりの引用をされての言葉なのか。それとも、市長自身が考え出した言葉なのか。その辺を非常にすばらしい言葉ですから、どのような発想のもとにされたのかをちょっとお聞きしたいと思います。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私がこのたび3月の市長選挙においてキャッチフレーズではございませんけども、使わせていただいた誰一人取り残さない、この言葉というのは、SDGsの推進に関する言葉でございまして、私自身は一般的に使われている言葉だというふうに認識をしているところでございます。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） SDGs関係で使われた言葉だということなんですが、私はてっきり仏陀、お釈迦様なんですけど、このお釈迦様が生まれてすぐ立ち上がって、7歩歩いて手を上下に位置をして、天上天下唯我独尊という言葉が発せられたそうですよ。この世の中で私が一番偉いんだと、そういう悟りの中の言葉を考えて、何でもできるんだということで、この誰一人として取り残さないという言葉が発したと思ったんですが、どうなんですか。そのお釈迦様の言葉もその中に入っているんじゃないですか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私、残念ながらお釈迦様ほど、そのような素質も持ち合わせておりませんし、私はやっぱり世界の民がやはりこのSDGsの精神を持って進めていくことが、最終的な民衆の平和。そして世界平和につながっていくものというふうに考えております。

そこで、このSDGsも対馬市として未来都市としても、選定をしていただきましたし、今後このことを中心としながら市政を進めていきたいというふうに考えているところでございます。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） この誰一人として取り残さないと言葉なんですけど、やはり一番弱い立場の人、これは子どもであったりとか、年を召された方だと思うんですが、特に子どもは自分で独立をしてやっていくことができないような位置にあるわけですが、そのようなこの誰一人として取り残さないというのは、位置づけとしてはやはり第1番はこの子どもたちだと思うんですが、その辺の認識はどうでしょうか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 誰一人取り残さないということは、もちろんこの子どもの子育て政策というのは、人口減少対策を考えた上から、重要なものではあるということは認識しておりますけども、ただ高齢者につきましても、いつまでもここ、この対馬で住み続けたいという思いは、強いものというものがあろうかと思っておりますので、子どものみではなく高齢者まで全ての市民の方々という認識をしているところでございます。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 先ほどの答弁の中で、無償化をしているのは、4市町ということなんですけど、雲仙市が今年の4月から始めているんですよ。ここは生徒数が約3,000人おるんですけど、ここは1億6,000万円という無償化の予算も計上してやっているわけですが、同じ長崎県ですから、先ほどの市長は、この給食については、国が責任を持ってやるべきだという話なんですけど、このように独自でやっている市もあるわけですよ。これについてはいかようにお考えでしょうか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、長崎県の市長会として国への重点要望事項として今要望を重ねている中で、このような形で財源が豊かな雲仙市、そしてまた諫早市あたりが、このような形で完全無償化に走るということは、我々は一緒になって国へこの要望を進めてまいりたいということで動いておりましたけれども、大変残念だという思いを持っているところでございます。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 残念ではなくて、これはすばらしいことなんですよ。

雲仙市がなぜそうしたかという、こう議会での答弁がございます。人口減少対策、若者の定住を促進する対策は、雲仙市の喫緊の課題なんだと。人口をこれ以上減らしたらいけないということの趣旨でやっているんですよ。

特に対馬においては国境離島じゃないですか。特に激しい、減りようが。そのために国としても有人国境離島などの新法を作って、そして地域社会の維持に努めているんですよ。

その先端にあるこの対馬市が、このように雲仙市もやっているんだから、できないことはないじゃないですか。

先ほど市長のほうから、財政的な余裕があるということを言われるけれども、標準財政規模はほぼ一緒なんですよ。標準財政規模は、対馬市が約170億円ですよ。それに対して雲仙市のほうは若干低いぐらいですよ。162億円ぐらいですよ。

そのような厳しい中でも、先ほどの人口対策をやっていくんだという趣旨のもとに、やっているわけですよ。十分できると思うんですけど。

それと、毎年毎年この予算を消化していく中で、予算が余ったりするんですけど、繰越金になるかと思うんですが、この繰越しというのは予算が余ったお金ですよ。これは本年度の決算では約9,000万あるんです。前年度は1億五、六千万あるんですよ、余ったお金が。使って残ったお金がそれだけあるんですよ。

それも活用できるじゃないですか。どうでもできるんで、やろうと思えば。お釈迦さんみたいな立場におるわけだから。

それと、合併するときに、合併特例債を発行させていただいたんですが、その中で事業をした中で使い切れないものが結構あったんですね。それを基金として合併特例振興基金として積んどるわけですが、その基金というのは、どのような目的で積んであるのか。自由に使えるのか使えないのか。その金額はどのくらいなのか。まずそれを部長でもいいからお願いいたします。

○副議長（春田 新一君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） 合併振興基金の用途と、現在の残額でよろしいですか。合併振興基金の用途としまして、合併に伴う市民の連帯の強化及び地域振興を図るための事業への財源に充当するということになっております。

現在の基金残額ですけど、約15億6,900万円です。

以上でございます。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 15億円もあるんですよ。先ほど言われたように、振興基金ですから、本来なら用途をはっきりとしたりするんですけども、これを合併をしたときにいろいろ支障があったときに対応するというふうな基金の組み込みになっていますから、使おうと思えば

これは自由に使えるお金なんですよね。その辺はどうなんですか、自由に使えるお金ですよね、規定がないから、部長どうなんですか。

○副議長（春田 新一君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） この分については特に用途は決まっています。

ただ、従来何に利用してきたかということになるんですけど、直近では豊玉こども園とか、特にハード事業についてこの基金を利用しております。

以上です。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 特定の用途ということは、明記していないので、6町合併によって支障ができたときには使えるわけですし、特に市長がいつも言っているように、人口減少対策をどうするかという大きい視点に立ったときに、このようにほかの市町村ありますけれども、全国的な、このような合併特例債は地域にあったかもしれないけれども、特にこの対馬6町が1つになったときに、かなりの金額を合併特例債で使用したけれども、残った金額もあります。

だから、今この時点で合併特例債15億円あるわけですから、これを例えば5年でもいいじゃないですか。15年間できるんですから、やろうと思ったら。

本当に子どものことを思って人口減少対策をまず取るということは、若い人が対馬に住んで、住み続けていただくということですよ。若い人が出ていくと子どもも出ていくし、またそれに関連してお年寄りも出ていったりするんですよ。

まず若い人、特に子どもを持っている方、持つであろう方も含めて、まず行政が支援をするということ。財源は先ほど言ったように合併特例債が15億円あるじゃないですか。5億円使っても5年間できるんですよ。

そして毎年毎年余る。事業費で余ったお金が1億円あるわけです、毎年毎年。それも十分に繰り入れることができるじゃないですか。余ったお金なんだから。

ならば子どもたちの今後のためというよりも、この人口がどんどん減っていく中で、打つべき手ではないかと思いますが、市長さんはいかにお考えでしょうか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 合併特例債の関係は、15億円あったといたしましても、一旦これを始めますと、子どもの人口は幾らか減ってはいくものの、途中でやめることはできないといったことがあろうかと思えます。

そしてまた、今現在もこの1億1,400万円の給食費の中でも、市といたしましても約4,000万円弱は給食費として補助をしているところでございます。

そういうことからして、先ほど議員おっしゃられましたように、今国のほうも総理大臣の候補

ということで9名の方が出ていらっしゃるんですけど、その中での公約の中で、そういった学校給食費等、そして保育関係、こういったところの補助についてもやはりこれは全額国が見るべきであるということをおっしゃられている候補者の方もいらっしゃいます。

そういうことで、私といたしましては、もうそれは議員おっしゃられるように、本当に子どもたちのためにやっていきたいという思いは持っておりますけれども、もう少し国のほうに力強く要望を重ねていって、後のまた決断、判断材料になろうかというふうには思います。

○副議長（春田 新一君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 国のほうもいろいろと。国がもし行くとすれば、年間6,000億円ぐらいいるんですけども、全部やっていくとすれば。

でも先ほど市長が言われたけれども、もし始めたらやめられないという話をされましたけれども、始めても国の方針など、例えば雲仙市もそうですけれども、国の方針を見ながら、そんなに長くはないんですから、国の方針を見ながら例えば15億円とか、その余ったお金が毎年毎年1億円あるんだから、それを5年、6年と、最低でも5年を積むということであれば、自然と市長会で要望されたように、国の責任で財源的なものを確保しながら、なっていくようになるわけです、これからの選挙の公約も言われたけど。

ならばその間の5年でもいいじゃないですか。皆さんがその対馬を出なくて、いいよと対馬は。給食がただなんだという。特に国境離島、そのために谷川先生に法律作っていただいたんですよ。

そういう趣旨に鑑みて、財源的なものは十分に考慮できるわけですから、来年の新年度予算については、十分に対応するようにお願いをして終わります。頭下げるだけじゃだめなんですよ。実行がもとになるわけですからね。よろしいですか。以上。

○副議長（春田 新一君） これで小宮教義君の質問が終わりました。

○副議長（春田 新一君） 昼食休憩といたします。再開を13時5分からとします。

午前11時56分休憩

午後1時05分再開

○副議長（春田 新一君） 再開します。

報告します。波田政和君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） こんにちは。9番議員、会派市民協働の脇本啓喜です。今回は、6月定例市議会で公表された所信表明について、通告に従い、以下の3点に分類し、質問いたします。